

校長 日山 寿康

I. 経営の基底

「教育は人づくり」という視点に立って、「知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな子どもの育成を図る」ことを基底に、「～来がい、やりがい、学びがい～ のある学校」を目指す学校像として、学校経営を進めていきたい。

新学習指導要領の「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、創意工夫をしかした特色ある教育活動」を展開していく。

(1)【知育】……確かな学力

基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かし多様な人々との協働を促す教育の充実を図る。(児童の言語活動、学習の基盤をつくる活動などの充実)

(2)【徳育】……豊かな心

よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

学校における道徳教育は、特別の教科である道徳（以下「道徳科」という）を要として学校の教育活動全体を通して行う。教育の根本精神に基づき、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。〔人間尊重の精神、生命に対する畏敬の念、伝統と文化を尊重、我が国と郷土を愛し、平和で民主的な国家及び社会の形成者、公共の精神尊び、社会や国家の発展に努め、他国を尊重し、国際社会の平和、環境の保全〕

(3)【体育】……健やかな体

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習課題を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することを目指す。

〔学校における食育教育の推進、体力の向上に関する指導、安全に関する指導、心身の健康の保持増進。家庭や地域社会との連携を図りながら、日常生活において適切な体育・健康に関する活動の実践を促し、生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎を培う。〕

新学習指導要領完全実施 3 年目となることをよく認識し、理解し、昨年度の実践を踏まえ今年度の教育活動に取り組んで行く。また、落ち着いた教育環境を整え、これまで取り組んできたことの成果や課題を確かめながら保護者の思いや願い、地域社会の期待を受け止め、それぞれの教職員の持つ力が十分に発揮されるよう学校経営に努めていく。

II. 経営の理念

- (1) 児童への学力保障及び成長保障
- (2) 児童の立場に立っての「生きる力」の育成
- (3) それぞれの教師の資質向上及び組織としての機能の発揮
- (4) 家庭や地域に開かれた学校

1 教育目標 『心豊かにたくましく生きる子ども』

2 めざす学校像・子ども像・教職員像

(1) めざす学校像 「～来がい・やりがい・学びがい～ のある学校」

◎来がい

児童 学校が楽しい、友達に会える、自分の居場所がある、勉強が楽しい、
職員 子どもに会える、先生方に会える、自分の役割がある
保護者・地域 子どもの様子を見たい、行事を見たい、保護者・地域を大切にしている

◎やりがい

児童 勉強をしたい、運動をしたい、愛好会をがんばりたい、委員会・クラブ・係・
当番などをがんばりたい
職員 学習指導、校務分掌、行事等、やりがいがある
保護者・地域 PTA活動、学校行事の手伝い、愛好会の手伝い、地域ボランティア、子ども
会、子どものためにやりがいがある

◎学びがい

児童 勉強が分かる、運動ができるようになる、色々なことを知りたい、調べたい
職員 教材研究、校内研修、日常の学習指導、校外研修、自分を向上させたい
保護者・地域 PTA研修、親子会議、学校行事、保護者・地域も学べる

①確かな学力と豊かな心を育む学校【経営の理念(1)、(2)】

学力の個人差があることを踏まえ、小規模校の強みを生かし個に応じたきめ細やかな指導を行う。「豊かな心」が育てば「学力」も身に付いてくると考え、根気強く心も育てていく。基礎学力を身に付けさせ、基礎・基本の定着を図り、主体的な学習を進めるとともに深めることで、確かな学力を身につけさせることを目指す。

②児童と教師が共に高め合う学校【経営の理念(2)、(3)】

教職員の後ろ姿が子どもを育てるともいえる。率先垂範で大切なもの、価値あるものに取り組んで行かなければならない。各行事や各教育活動に意欲的に取り組む学校、行事等で共に心身を鍛えていく学校、児童と教師の信頼関係を築き、共に創りあげていく学校をめざす。

③家庭・地域と連携し、信頼される学校【経営の理念(4)】

学校の活動の様子や学校の考えを発信し、様々な意見や要望を受信することで、お互いの信頼関係を築く。また、家庭でしつけること(家庭の役割)、学校でやらなければならないこと(学校の役割)についても互いに理解を深めていく。また、学校を取り巻く望ましい環境づくりのために、家庭や地域での役割が重要であることを保護者、地域に発信し、理解を深めていく。

(2) めざす児童像＝努力目標

①進んで学ぶ子

視点1 めあてをもって、主体的に学習に取り組む子
視点2 基礎・基本を身に付け、自分の考えや思いを表現できる子

②思いやりのある子

視点1 友だちと仲良くし、協力できる子
視点2 進んで元気に挨拶・返事ができる子

③健康な体をつくる子

視点1 運動・健康のめあてをもち、進んで取り組む子
視点2 良い生活習慣を心がけ、規則正しい生活ができる子

(3) めざす教職員像

①自己の研鑽を積み、確かな学力の定着と向上に努める教職員

学力の向上は保護者の願いである。日常の教材研究、授業実践や校内研修、校外研修を通して、学習指導法の工夫・改善に取り組み、向上に努める教職員。

児童に基礎学力を身に付けさせ、主体的な学習を進めながら基礎・基本の確実な定着と、確かな学力の定着を目指す。

・自己を高めるために研修を積み、日々学ぶ教職員

・教材研究・授業改善に意欲的に取り組む教員

(確かな学力、基礎・基本の確実な定着、主体的・対話的で深い学び)

②児童と共に行動し、児童の変容に努める教職員

日常の学校生活(学習、特活、その他の教育活動等)において、優しさと厳しさをもって児童に寄り添い、触れ合い、共に活動することで、児童の成長やよりよい変容に努める教職員。

- ・児童とともに学ぶ姿勢をもち、受容的・共感的な姿勢で接する教職員
 - ・児童に夢やビジョンを語れる教職員
 - ・元気で明るい挨拶、笑顔、声がけで学校を元気にする教職員
- (優しさと厳しさ、寄り添い、触れ合い、共に活動、共感的理解)

③組織の中で自己の力を発揮し、同僚性を大切にして協働する教職員

「～来がい、やりがい、学びがい～のある学校」にするためには、教職のプロとしての自覚をもち、一人一人が自分の力を十分に発揮し、職務に取り組んで行かなければならない。教職員のそれぞれの力と団結が必要になる。そのために、自分の果たすべきことよく理解し、責任を持ち、協働の精神で日々実践を積む教職員。

- ・自分のやるべきことは責任を持って果たす教職員
 - ・様々な課題等について気軽に相談したり、意見交換し合える教職員
 - ・学校経営に参画意識をもった教職員
 - ・保護者、地域の人々を大切にする教職員
- (自分の力の発揮、教職員の団結、責任、協働の精神、地域愛)

Ⅲ. 基本方針

1 組織が機能する経営の推進

- ・教育目標、努力目標具現化のための方策を全教職員で考え、共通理解し、それに基づいて実践・改善していく協働精神を培う。
- ・全教職員が学校経営への参画意識をもち、個々の持つ力量・知恵・特性等を結集し、十分に発揮しながら学校組織の機能を推進させていくような経営に努める。

2 確かな学力の定着と向上

- ・主体的な学習活動を取り入れわかる授業を行うことはもとより、補充学習や様々な学習の機会を工夫し、基礎・基本の定着を図り、基礎学力を身に付けさせる。
- ・授業改善への教材研究及び授業実践に努め、確かな学力の定着と向上を図る。
- ・子ども一人一人の能力・適性を把握し、単式・複式いずれの学級においても、学び方を身に付けさせ、授業の中で主体的な学習活動を行う場面や、学習を振り返り深める場面を取り入れるよう努める。
- ・身に付けた知識や技能を様々な場面で、活用できるよう指導に努める。

3 命を守る安全教育の充実

- ・教職員の共通理解による安全管理、安全指導のもと、事故等の要因となる学校環境や子どもたちの危険な行動を早期に察知し、適切かつ具体的な指導に努める。
- ・保護者や地域の関係諸機関と連携を図り、子どもたちが事故に遭ったり、事件に巻き込まれたりすることがないように万全を期す。

4 望ましい集団づくり

- ・学級活動や児童会活動、学校行事を通して、良好な人間関係を構築し、自分の良さに気付き、お互いを思いやり、認め合い、励まし合い、共に伸びる集団づくりに努める。
- ・それぞれの児童のもつ能力、個性を理解し、その良さを引き出すことで、力を発揮させ、成就感、満足感を感じて自己肯定感がもてるよう努める。

5 開かれた学校の推進

- ・家庭・地域に教育活動を公開し、学校・地域・家庭と連携を図ることによって教育機能の安定と充実を図る。
- ・学校・家庭・地域における互いの情報を双方向で送受信し、共有することにより、理解と協力を得て信頼される開かれた学校づくりに努める。

IV. 経営の重点と具体的方策（努力目標＋2項目）

1 進んで学ぶ子

①わかる授業の実践

- ・特別支援教育の視点を踏まえた学習指導、主体的な学習の推進、振り返りによる深い学びから次の主体的な学びへ

②基礎・基本の定着

- ・新学習指導要領に沿って教科等の確実な実施

③家庭学習の習慣化

- ・学習時間 ・自主学习 ・学習内容の質の向上

④小・中連携

- ・系統性をふまえた効果的な指導計画 ・相互の授業参観による指導改善
- ・児童・生徒間での学習等の交流 ・情報交換と生徒指導面の連携

2 思いやりのある子

①道徳の充実

- ・道徳科の授業の充実 ・道徳と関連させた教科経営 ・行事と関連づけた道徳科の授業 ・体験活動の充実

②特別活動の充実

- ・人間関係づくり、話し合いによる合意形成、自治的能力を重視した学級経営 ・児童会活動の活性化 ・学校行事の充実 ・奉仕活動の啓発 ・美意識の向上

3 健康な体をつくる子

①家庭との連携による基本的生活習慣の確立

- ・早寝、早起き、朝ごはん ・睡眠時間の確保

②生活意識の向上

- ・あいさつ運動の推進（校内、地域） ・場に応じたあいさつ

③生徒指導・教育相談の充実

- ・「報(告)・連(絡)・相(談)・確(認)」の徹底と共通理解、共通実践による組織的な指導
- ・職員会議、生徒指導情報交換会等で情報交換（全職員で全児童を育てる）
- ・連携の充実（学級担任・養護教諭と家庭、学校と各関係機関）

④安全意識の向上

- ・縦割り清掃活動の安全 ・避難訓練（事前・事後の指導） ・快適な生活環境の維持 ・日常の健康教育、安全教育 ・食育指導の充実

4 家庭・地域・関係機関等と連携し、信頼される学校

①積極的な情報公開

- ・各種通信の定期的発行 ・地域関係団体、関係機関との連携

②情報の受信

- ・学校行事での保護者、地域との交流 ・保護者集会における情報の把握
- ・家庭訪問、電話、情報配信での連携 ・ボランティアを活用した地域との連携

5 子どもと共に行動し、子どもの変容に努める教職員

①研修の充実

- ・授業実践に基づいた校内研修の充実
- ・資質向上を目指した日常の授業の研修
- ・校外研修への参加と研修内容の共有（発表の場、資料の提供、伝達）
- ・生徒指導、教育相談能力の資質向上を目指した研修

②積極的な教育相談の実施

- ・学校不適応にさせないための指導（児童理解、全職員の共通理解）
- ・定期的、継続的な相談活動（家庭や関係機関との連携）

③心身を鍛える愛好会・クラブ活動の活性化（卓球・神楽）

④教職員の団結と協働

- ・中期的・長期的な計画を立て見通しを持った実践ができるようお互いに協働に努める。

V 学校目標について

◎ 学校目標 「『確かな学力の育成』～連続した主体的な学びに」

〔設定理由〕

- ・小規模校での単式2学級、複式2学級において、主体的に学びながら、基礎・基本の定着を図ることにより、学力低下を防ぎ、確かな学力を身に付けさせたい。
- ・これまで本校が大切にしてきた「振り返り」をしっかりとすることにより、学びを深いものにし、次の主体的な学びにつなげていきたい。

〔重点施策〕

- ①「基礎学力（読む・書く・計算）」を身に付け、基礎・基本の確実な定着を図り、確かな学力の育成を図る。（特別支援教育の視点、ICT活用）
- ②「主体的な学びを深めさらなる主体的な学びへ」という視点での授業改善を図る。（見通しを持つ、粘り強く取り組む、学習を振り返り次につなげる、複式指導）
- ③家庭と連携し、家庭学習の習慣化と充実を図る。（自分の家庭学習についても振り返る）
- ④業務改善計画に沿って働き方改革を進めることで、より効果的な教育活動の充実を図る。

〈具現化のための具体的な方策〉

- ①－1 全校一斉に校内テストを実施する。（国語・算数、年3回）
- ①－2 特別支援教育の視点に立った個に応じた指導、環境づくりを行う。
※学力テスト等の諸調査の結果分析とその活用を図り、学習指導に生かす。
- ①－3 基礎・基本の定着を図るための指導を充実させる。（学習後の確かめや見とり、自習や業間の時間におけるクロムブックの活用、読書活動など）
- ②－1 学習の見通しを持たせ、意欲を高め、粘り強く最後まで取り組み、さらに主体的に取り組むよう指導法の工夫を行う。（めあて、課題、まとめ）
- ②－2 学習の振り返りを次の学習につなげることができるような指導法や場の設定を工夫する。
- ②－3 複式指導での学習リーダーを育成し、リーダーを中心とした主体的な学習活動を進める。（どの子もリーダーができるように指導する。）
- ③－1 家庭学習での家庭との連携を図る。（家庭学習の手引き、学級便り等）
- ③－2 家庭学習の課題の内容や出し方を工夫する。（望ましい量、内容の質、自主学習ノート、振り返り）
- ④ 職員の多忙化の解消に努め、職員の精神的なゆとりと安定を図ることで子ども達に対して効果的な教育活動を充実させる。

〔評価基準〕

- ◎めざす児童（下記）を設定し、それに基づいた学校評価アンケートを年2回実施する。
 - ・児童・保護者からの肯定的な回答（4段階評価の「3・4」）が80%以上を達成とする。
 - ・教員自己評価の結果も参考とする。（80%以上90%未満をB、80%未満をCとし、90%以上でAとする。）
- ◎島守中学校区地域学校連携協議会の場において、各委員より総合的に評価してもらう。

〈めざす児童及びアンケート項目〉

①基礎・基本の定着

「習った漢字の読み・書きができる」、「読み・書き、計算が身に付いている」、「学習したことがよくわかる」、「読書にしっかり取り組んでいる」

②主体的な学びを深め、さらに主体的な学びにつなげる視点での授業改善

「学習のめあてや見通しをもって授業に臨んでいる」、「進んで学習に取り組んでいる」、「授業で先生や友だちの発表をしっかり聞いている」、「友達の考えと自分の考えを比べながら聞いている」、「粘り強く学習に取り組んでいる」、「学習したことを振り返りの学習に生かそうとしている」

③家庭学習の習慣化と充実

「学年×10分以上学習している」、「課題に粘り強く取り組んでいる」、「内容を理解して家庭学習に取り組んでいる」、「自ら計画的に家庭学習に取り組んでいる」、「自主学習ノートによく取り組んでいる」、「自分の家庭学習について振り返っている」